

2025年度新課程入試科目 分析速報

文部科学省や大学入試センターが新課程に対応した令和7年度（2025年度）大学入学共通テスト（以下、共通テスト）に関する情報を公表したことを受け、国公立大や一部の私立大においても2025年度入試情報の公表が進んでいる。

本記事では、これまでに大学入試センターが公表した内容を整理するとともに、新たに各大学より公表された2025年度入試情報についてもまとめた。内容の一部には予告や案という形になっているものが含まれていることをご留意いただきたい。

共通テスト

出題教科・科目は7教科21科目へ再編
配点、時間割（イメージ）も判明

2025年度共通テストでは、『国語』『地理歴史』『公民』『数学』『理科』『外国語』『情報』の7教科21科目が出題される＜図表1＞。2022年11月までに公表された情報をもとに現行課程との変更点を確認していく。

＜図表1＞2025年度共通テスト出題教科・科目・配点

教科	出題科目	選択方法	試験時間・配点
国語	「国語」		90分、200点
地理 歴史	「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「地理総合,歴史総合,公共」* *いずれか 2 科目の内容を選択解答	6 科目から 最大 2 科目選択	1 科目選択 60分
公民	「公共,倫理」 「公共,政治経済」 「公共,倫理」「公共,政治・経済」の組み合わせ、「地理総合,歴史総合,公共」で選択した科目と同一名称を含む科目の組み合わせ不可		2 科目選択 130分
数学	①「数学Ⅰ,数学A」 「数学Ⅰ」	1 科目選択	70分、100点
	②「数学Ⅱ,数学B,数学C」* *数学B・数学Cについては、各 2 項目 出題のうち 3 項目を選択解答		70分、100点
理科	「物理基礎,化学基礎, 生物基礎,地学基礎」* *いずれか 2 科目の内容を選択解答 「物理」「化学」 「生物」「地学」	5 科目から 最大 2 科目選択	1 科目選択 60分 2 科目選択 130分 1 科目100点
外国語	「英語（リーディング,リスニング）」 「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	1 科目選択	英語リーディング 80分、100点 英語リスニング 60分、100点 その他の外国語 80分、100点
情報	「情報Ⅰ」		60分、100点

※2022年11月、大学入試センター公表資料より

※地理歴史・公民、理科で2科目選択した場合の解答時間は各60分

※英語リスニングの解答時間は30分

■国語

試験時間は10分延長され、90分となる。

問題構成は「近代以降の文章」に大問が1つ追加され、第1問から第3問が近代以降の文章、第4問が古文、第5問が漢文となる。追加された第3問では、学習場面を設定し、文章、図表などの資料を関連づけて解釈する力が求められた。これにより各大問の配点も変更され、近代以降の文章は3問で110点（第1・2問45点、第3問20点）、古文は1問45点、漢文1問45点となる＜図表2＞。なお、大学入試センターは、問題構成や出題内容、近代以降の文章3問の配点については、今後も検討するとしており、近代以降の文章の大問ごとの配点は変更の可能性を残しているので注意したい。

＜図表2＞国語の問題構成

2023年度

試験時間80分

設問	分野	配点
第1問	近代以降の文章	50点
第2問	近代以降の文章	50点
第3問	古文	50点
第4問	漢文	50点

100点

2025年度（試作問題より）

試験時間90分

設問	分野	配点
第1問	近代以降の文章	45点
第2問	近代以降の文章	45点
第3問	近代以降の文章	20点
第4問	古文	45点
第5問	漢文	45点

110点

※2022年11月、大学入試センター公表資料より

■地理歴史、公民

『地理歴史』『公民』は、現行の10科目から6科目へ大きく改編される。試作問題で公表された問題構成と分野ごとの配点は＜図表3＞の通り。「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」は総合科目が25点、探究科目が75点、「公共、倫理」「公共、政治・経済」は公共が25点、倫理、政治・経済がそれぞれ75点、「地理総合、歴史総合、公共」は各科目50点（2分野を選択）となる。＜図表3＞の矢印が示す通り、「地理総合、歴史総合、公共」と他の5科目には同一の共通問題がある。また、「公共、倫理」「公共、政治・経済」の公共分野も同一の問題となっている。これらの理由で『地理歴史』『公民』から2科目を受験する場合、共通問題を含む科目同士（「公共、倫理」「公共、政治・経済」の組み合わせ、「地理総合、歴史総合、公共」で選択した科目と同一名称を含む科目の組み合わせ）を同時に選択することはできない。

＜図表 3＞『地理歴史』『公民』の試作問題の問題構成



※2022年11月、大学入試センター公表資料より

■ 数学

数学①に変更はないが、これまで出題されていた数学②の「数学Ⅱ」「簿記・会計」「情報関係基礎」は廃止され、「数学Ⅱ・数学B・数学C」1科目のみの出題となる。数学Bから「数列」「統計的な推測」の2項目、数学Cから「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面（以下、複素数平面）」の2項目が出題され、受験者はこのうち3項目を選択解答する。現行でも課されている「数列」「ベクトル」に加え、「統計的な推測」が「複素数平面」のいずれかの対策が必要となるため、数学②はこれまでより負担が大きい科目となる。数学②の試験時間は現行より10分延長され70分となり、数学①の試験時間と揃う。

■ 理科

『理科』の出題科目は基礎科目が1科目にまとまり、基礎を付さない科目とあわせた5科目となる。実質は現行課程と変わらないが、これまで理科①（基礎を含む科目）と理科②を別時間に実施していたが、同一の時間で実施する。

■ 情報

新設教科の『情報』は新学習指導要領の必修修科目である「情報Ⅰ」（コンピュータの仕組み、プログラミング等）の内容を出題範囲とし、単独の試験時間帯で実施される。試験時間は60分、配点は100点となる。試作問題をみると、大問4問全問必答の構成で、新学習指導要領の4つの領域から均等に出題されている。問題で使用するプログラミング言語は、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の日本語プログラム表記を用いる方向性で検討されている。

＜図表 4＞は大学入試センターから公表された時間割である。数学②の試験時間延長、『情報』の追加があるものの、『理科』の試験実施がスリム化されたことで2日目の終了時刻が大きく後ろ倒しになることは避けられている。なお、今回公表された時間割はイメージとしており、実際の時間割は検討中としている。

＜図表 4＞2025年度共通テスト時間割イメージ

1日目	2日目
9:30～11:40（130分） 地理歴史・公民（2科目） ※1科目受験者は10:40～	9:30～11:40（130分） 理科（2科目） ※1科目受験者は10:40～
13:00～14:30（90分） 国語	13:00～14:10（70分） 数学①
15:20～16:40（80分） 外国語	15:00～16:10（70分） 数学②
17:20～18:20（60分） 英語リスニング	17:00～18:00（60分） 情報

※2022年11月、大学入試センター公表資料より

新課程入試に向けた今後の公表スケジュール

新課程入試に関する情報については、今後も文部科学省、大学入試センターなどから順次公表されていく＜図表 5＞。

2023年6月頃に、大学入試センターから公表される「出題教科・科目の出題方法及び問題作成方針」では、例年公表されている内容に加え、旧課程履修者への経過措置を含めた出題方法、科目選択方法などが正式決定する。また、得点調整の実施方法についての詳細も6月頃までに決定するとされている。発表内容を注視したい。

＜図表 5＞新課程入試に関するスケジュール

令和4年度 (2022年度)	4月	新課程生高校入学
	11月	共通テスト配点付き試作問題・問題作成の方向性公表
令和5年度 (2023年度)	年度内	各大学が共通テスト利用教科・科目の予告
	6月頃	共通テスト実施大綱公表 共通テスト出題教科・科目の出題方法及び問題作成方針公表
令和6年度 (2024年度)	6月頃	共通テスト実施要項公表
	～7月末	各大学の入学者選抜実施要項公表
令和7年度 (2025年度)	9～3月	新課程に対応した最初の大学入試実施
	1月	新課程に対応した最初の共通テスト実施
	4月	新課程初年度生大学入学

国公立大分析

2025年度入試情報の公表進む

新課程入試まで2年を切り、各大学は2025年度入試科目等の公表を進めている。国公立大では、約8割の大学が何らかの情報を公表した（2023年3月15日時点）。今回は、そのうち一般選抜の教科・科目の詳細を明らかにした国立57大学・公立63大学（2次試験の詳細未判明大を含む）の公表内容から2025年度一般選抜の特徴について分析した。

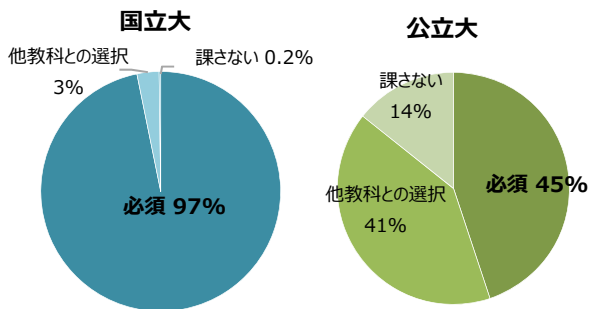
なお、3月15日時点で未判明の大学も、3月末にかけて公表を進めている状況だ。共通テスト教科・科目を公表した後、個別試験の出題範囲や配点等を段階的に公表する大学も多い。今回はあくまでも速報としてご確認いただきたい。

共通テスト『情報』－国立大は9割以上が必須

まず初めに、共通テスト『情報』の利用状況についてみていく。＜図表6＞。前期日程で『情報』を必須で課す区分は、国立大では97%となった。多くの国立大が、国立大学協会が示した『情報』を含む6教科8科目を課す基本方針に準じた。一方の公立大では、『情報』を課さない区分が1割を超え、新教科の利用に慎重な動きがみられる。必須の割合は4割強にとどまるが、他教科との選択と合わせると8割を超える区分で『情報』が利用可能だ。

なお、『情報』を課す大学のなかには、教科増の影響を最小限にとどめる配慮をするケースもみられる。必須で課すものの得点化はしない（北海道大、徳島大）、他教科と比べて配点の比重を低く設定する（筑波大（情報学群を除く）、名古屋大）などがある。

＜図表6＞ 国公立大 共通テスト『情報』利用状況



※2023年3月15日現在、河合塾調べ

※前期日程で集計（大学公表の募集区分に基づき作成）

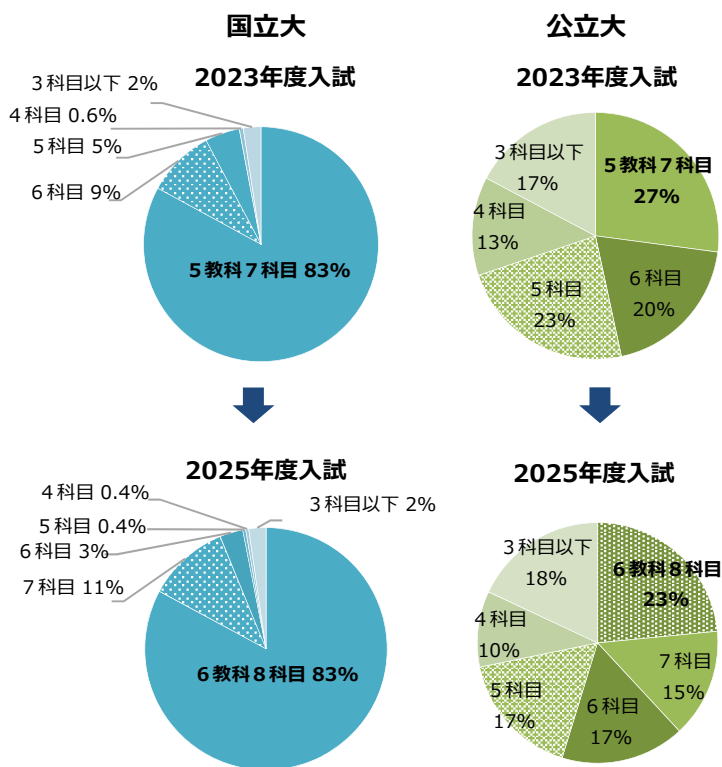
共通テスト教科・科目数－国立・公立大で特徴分かれる

次に、共通テスト教科・科目数の特徴をみていく。＜図表7＞は現行課程の2023年度入試と比較したものである（前期日程）。国立大では、『情報』を含む6教科8科目を課す区分は83%と、2023年度入試で5教科7科目を課す区分の割合と同率となっている。国立大では、現行で5教科7科目を課す大学のほとんどが『情報』を加えた6教科8科目に移行するものと考えてよいだろう。

一方の公立大は、6教科8科目を課すのは全体の2割にとどまり、その割合は2023年度入試で5教科7科目を課す区分と

比べて低い。前述したように公立大は『情報』を他教科との選択とする区分の割合が高く、現行入試の教科・科目数を維持する大学があるためである。円グラフの内訳を「5科目以上」と「4科目以下」に大別すると、その割合は2023年度から大きな変化はなく、国立大と比べると教科増による負担増は感じない。とはいえ、公立大でも医学科や難関大の多くは、国立大に準じて6教科8科目に移行するため、国公立大をめざす受験生にはまずは『情報』を含む6教科8科目を受験することを念頭に取り組ませたい。

＜図表7＞ 国公立大 共通テスト教科・科目数の変化



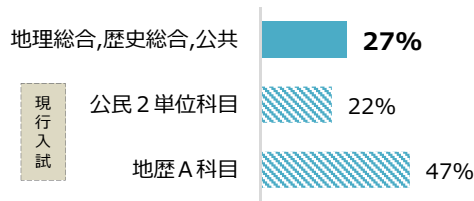
※2025年度入試の数値は2023年3月15日現在、河合塾調べ

※前期日程で集計（大学公表の募集区分に基づき作成）

共通テスト「地理総合、歴史総合、公共」の扱い

大きく改編される共通テスト『地理歴史』『公民』では、必修科目を組み合わせた「地理総合、歴史総合、公共」の利用可否が注目される。現行入試では地歴A科目や公民2単位科目（「現代社会」「倫理」「政治・経済」）の利用を認めないケースがあるためだ。各大学の公表内容を見ると、前期日程では全体の7割以上（国立大68%、公立大90%）の区分で「地理総合、歴史総合、公共」を利用できることがわかった。現行入試で地歴A科目、公民2単位科目のいずれかを認めない区分の割合と比較しても、極端に制限されている様子はみられない＜図表8＞。ただし、「地理総合、歴史総合、公共」の利用を認めない大学の顔ぶれをみると、北海道大、東京大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大などの難関大や、医学科が中心となっている。これらの大学を視野に入れている受験生は、その他の科目を選択する必要があるため注意したい。

＜図表 8＞ 国公立大 共通テスト「地理総合、歴史総合、公共」
利用不可の割合



※2023年3月15日現在、河合塾調べ
※前期日程で地歴・公民を課す区分で集計（大学公表の募集区分に基づき作成）
「現行入試」は2023年度入試の状況

2 次数学 – 出題範囲に大きな変更はない見込み

2 次試験で数学を課す大学の状況についてみていく。教育課程の変更にともない、現行課程の「数学 B」で学ぶベクトル、「数学Ⅲ」で学ぶ複素数平面はともに「数学 C」に移行し、とくに文系学部で「数学 C」を課すか否かが注目されていた。

新学習指導要領 数学 科目と項目

数学Ⅰ（3単位）	数学Ⅱ（4単位）	数学Ⅲ（3単位）
(1)数と式 (2)図形と計量 (3)二次関数 (4)データの分析 〔課題学習〕	(1)いろいろな式 (2)図形と方程式 (3)指数関数・対数関数 (4)三角関数 (5)微分・積分の考え 〔課題学習〕	(1)極限 (2)微分法 (3)積分法 〔課題学習〕
数学 A（2単位選択）	数学 B（2単位選択）	数学 C（2単位選択）
(1)図形の性質 (2)場合の数と確率 (3)数学と人間の活動	(1)数列 (2)統計的な推測 (3)数学と社会生活	(1)ベクトル (2)平面上の曲線と 複素数平面 (3)数学的な表現の工夫

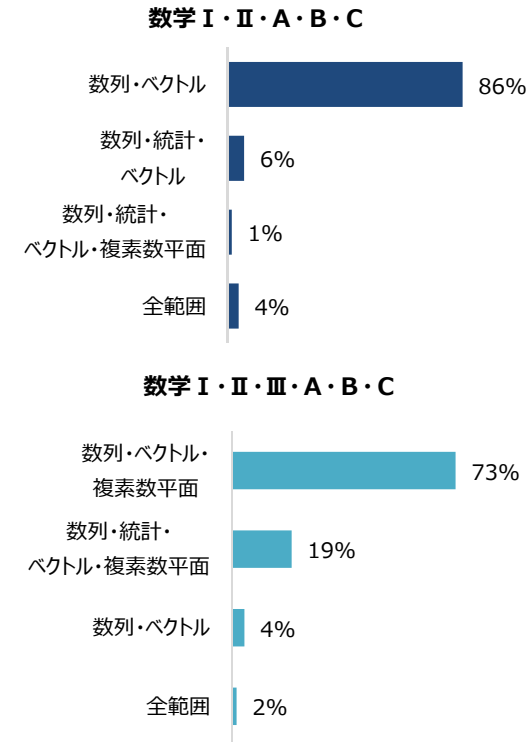
※文部科学省資料より作成

大学の公表内容をみると、文系学部は「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C」、理、工、薬、医学科といった理系学部は「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C」を課するのが一般的ようだ。農、看護では、現行入試と同様に「数学Ⅲ」を課さない割合が他の理系学部と比べて高くなっている。「数学 B」「数学 C」からの出題範囲をみると、「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C」を課す大学では、数列とベクトルを出題する区分が 8 割以上、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C」では、数列、ベクトル、複素数平面を出題する区分が 7 割以上を占めている＜図表 9＞。「数学 C」が増えたとはいえ、個別試験においては現行入試の出題範囲から変更しない大学が多く、大きな負担増にはならない見込みだ。

2 次地歴 – 東京大・京都大・筑波大は探究からの出題

2 次試験の地理歴史（地理・日本史・世界史）の出題範囲についても簡単に触れておく。現時点では、共通テストに倣い、必修履修科目である「地理総合」「歴史総合」を出題範囲に含める大学が多い。北海道大、千葉大、東京外国語大、東京都立大、名古屋大、大阪大などがその例である。一方、東京大、京都大、筑波大の 3 大学では、「探究」のみの出題を明示している。2 つのパターンにより出題内容に大きな違いが生じるか否かは、実際の試験問題を確認しなければ判断できないが、2 次試験で地理歴史を課す大学の出題範囲の公表内容にも引き続き注目したい。

＜図表 9＞ 2 次数学（数学 B・数学 C）の主な出題範囲

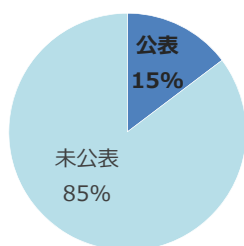


※2023年3月15日現在、河合塾調べ
※前期日程の 2 次数学を課す区分で集計（大学公表の募集区分に基づき作成）
統計は「統計的な推測」、複素数平面は「平面上の曲線と複素数平面」の略

全私立大の15%が新課程入試情報を公表

＜図表10＞では、2023年3月15日時点で2025年度入試について何らかの情報を公表している大学の割合を示した。公表済みの大学は88大学（全私立大のうち15%）であり、大半の私立大が未公表であることがわかる。ここからは私立大の公表内容より読み取れることについてお伝えしていく。

＜図表10＞ 私立大の新課程入試情報公表状況



※2023年3月15日現在、河合塾調べ

共通テスト利用方式

新課程入試においても共通テスト利用方式は、大学や入試方式によって科目設定や必要科目数が多様であるという点は従来と変わらない。以下では、『地理歴史』『公民』と『情報』について詳しくみていく。

■「地理総合、歴史総合、公共」の利用可否

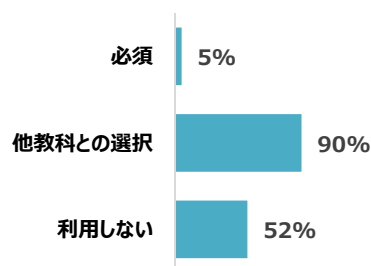
私立大における「地理総合、歴史総合、公共」の利用可否は大学によって判断が分かれている。早稲田大や上智大といった難関大では「地理総合、歴史総合、公共」の利用を認めていない。国公立大と同様に、難関大を志望する場合は他の科目を選択することを推奨したい。

■『情報』の取り扱い

＜図表11＞では、『情報』の取り扱いについて公表済みの大学の状況を示した。私立大では学部・学科・入試方式により『情報』の取り扱いが異なる場合が多く、同じ大学でも取り扱いが異なる場合はそれぞれを1件として集計している。『情報』について公表済みの大学の9割が『情報』を他教科との選択としている。『情報』を利用しない入試方式を設定している大学も約半数にのぼり、多くの私立大で共通テストに『情報』が追加されてもこれまで通りの教科・科目で受験可能となりそうだ。

なお、私立大では共通テスト利用方式の1方式として『情報』を必須とする入試方式を導入する例がみられる。福岡工業大では「情報型（仮称）」を導入する。この場合も『情報』を選択しなくても受験できる入試方式を並行して設定しているため、必ずしも『情報』の受験が必要な状況ではない。ただし、日本大（文理－社会C方式）については、共通テスト利用方式はこの1方式のみであるが、『情報』を必須として課す。今後、私立大でも2025年度入試の公表が広がっていくが、このケースには注意したい。

＜図表11＞ 私立大における共通テスト『情報』の取り扱い



※2023年3月15日現在、河合塾調べ

※一般選抜で集計（1大学で学部・学科・入試方式により『情報』の取り扱いが異なる場合、それぞれを1件として集計）

一般方式

一般方式も現行入試と同様、文系学部は英語、国語、数学または地理歴史・公民の2～3教科、理系学部は英語、数学、理科から2～3教科を課す大学が多い。以下では、数学、地理歴史・公民、情報について詳しくみていく。

■数学の範囲

私立大では新課程入試情報は未公表という大学の割合が高く、全容はまだつかめないものの、公表した大学の状況を見ると、文系学部は「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C（Cはベクトルのみ）」、理系学部は「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C（Cはベクトルと複素数平面）」で対応できそうである。なお、「数学Ⅰ・A」までを出題範囲としている大学や、理系学部でも「数学Ⅲ」を必要としない大学もみられる。おおむね、現行課程と同様の出題範囲となる大学が多そうだ。

「数学B」の範囲は、文理問わず数列のみを課す大学が多いようだ。統計的な推測については、早稲田大のように必須とするケースや、慶應義塾大のように課すか課さないかが学部によって異なるケースもある。「数学B・C」の範囲に関しては、大学個別の公表内容を確認するようにしたい。

■地理歴史・公民の指定科目は多様

地理歴史・公民の指定科目は、大学や学部により多様だ。例として慶應義塾大をみると、文学部、法学部、経済学部では「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」から選択としているのに対して、商学部では「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」からの選択としている。また、早稲田大をみると、文化構想学部と文学部では「日本史探究」「世界史探究」からの選択、教育学部では「地理総合、地理探究」「日本史探究」「世界史探究」からの選択、法学部と商学部では「日本史探究」「世界史探究」「政治、経済」からの選択としており、同じ大学の中でも揃っていない。なお、公民を出題する大学は少ないが、公民科目も「公共」分野を加える大学と加えない大学に分かれている。

■「情報」を個別試験で課す私立大

アカルト入試の一環として、一般方式でも「情報受験型」入試を導入する大学がみられるほか、選択科目として「情報」を追加する大学もみられる。また、慶應義塾大（総合政策、環境情報）のように、現行入試で「情報」を課している大学が引き続き課す例もみられる。ただし、大学で作問することを考慮すると、このような動きはごく一部にとどまりそうである。一般方式も多くはこれまで通りの教科・科目で受験可能となりそうだ。

慶應義塾大、早稲田大の公表内容

■慶應義塾大

慶應義塾大は、例年同様に共通テストは課さないため、個別試験についてみていく。地理歴史は前述のとおり、学部によって指定科目が異なる。「情報」は総合政策学部と環境情報学部で、他教科との選択として出題されるが、「情報」を選択する場合は数学とペアでの選択が必須となる点に注意が必要だ。数学の出題範囲は<図表12>で示したように学部によって異なる。

<図表12> 慶應義塾大 個別試験 数学の出題範囲

学部	数学の範囲	A			B			C		
		図	場	人	列	統	社	ベ	複	表
総合政策	I・II・A・B	●	●	●	●	●				
経済A方式	I・II・A・B・C ^{*1}		● ^{*2}		●			●		
商A方式	I・II・A・B・C	●	●		●			●		
理工	I・II・III・A・B・C	●	●	● ^{*3}	●			●	●	
医	I・II・III・A・B・C	●	●		●	●		●	●	
薬	I・II・III・A・B・C	●	●	● ^{*3}	●	●		●	●	
看護医療	I・II・A・B・C	●	●		●	●		●	●	
環境情報	I・II・III・A・B・C	●	●	●	●	●		●	●	
	I・II・A・B ^{*4}	●	●	●	●	●				

※大学公表資料より

数学A…図：図形の性質 場：場合の数と確率 人：数学と人間の活動

数学B…列：数列 統：統計的な推測 社：数学と社会生活

数学C…ベ：ベクトル 複：平面上の曲線と複素数平面

表：数学的な表現の工夫

* 1：数学Ⅱの「微分・積分の考え」においては一般の多項式を扱う

* 2：範囲の詳細は未判明

* 3：「整数の性質」に関する部分のみ

* 4：外国語または「情報」と組み合わせて受験した場合

■早稲田大

共通テストで課す科目をみると、『情報』は他教科との選択、もしくは課さない、としている。『地理歴史』『公民』は前述のとおり、「地理総合、歴史総合、公共」は選択不可だ。

個別試験では、数学の出題範囲が<図表13>で示したように学部・入試方式によって異なる。また、地理歴史・公民も前述のとおり、学部によって指定科目が異なる。

早稲田大は、科目以外にも2025年度入試におけるさまざまな変更を発表している。社会科学部と人間科学部は、個別試験のみの方式を廃止し、共通テストが必須となる。商学部は「英語4技能テスト利用型」を廃止し、「地歴・公民型」の募集人員を増やす。基幹理工学部では学系を3つから4つに再編する。

新課程入試ということで入試科目に注目が集まりがちだが、他の大学でも早稲田大のように科目以外に大がかりな変更を行う可能性があるため、入試科目以外の公表内容も注視したい。

<図表13> 早稲田大 個別試験 数学の出題範囲

学部	数学の範囲	A			B			C		
		図	場	人	列	統	社	ベ	複	表
教育、基幹理工、創造理工、先進理工、人間科学（数英型）	I・II・III・A・B・C	● [*]			●	●		●	●	
社会科学、商	I・II・A・B・C	● [*]			●	●		●		
人間科学（数学選抜方式）	I・II・III・A・B・C IIIを除く範囲のみでの解答も可能	● [*]			●	●		●	●	

※大学公表資料より

数学A…図：図形の性質 場：場合の数と確率 人：数学と人間の活動

数学B…列：数列 統：統計的な推測 社：数学と社会生活

数学C…ベ：ベクトル 複：平面上の曲線と複素数平面

表：数学的な表現の工夫

*：範囲の詳細は未判明

最後に

ここまで新課程入試に関する内容をみてきた。各大学は公表を進めており、日々情報が更新されている。

注目を集めている共通テスト『情報』については、国公立大を志望する場合には必須で考えるべきであろう。しかし私立大では、共通テスト『情報』は一部の方式で必須もみられるものの、多くは選択科目としての利用にとどまり、ほとんどの大学・学部ではこれまで通りの教科・科目で受験が可能となりそうだ。共通テストでは『国語』『数学』『地理歴史』『公民』にも変更がある。これまでに公開された試作問題や、本年6月頃に大学入試センターから公表される問題作成方針を参考に対策を練りたい。

大学独自試験では、国公立大の2次試験で新たに「情報」を課す動きは一部の情報系学部でみられるものの、少なくとも初年度は限定的となりそうだ。私立大については、個別試験で「情報」を出題する動きは一部でみられるものの、複数ある受験方式の一つという扱いであり、こちらでこれまで通りの教科・科目の準備で対策が可能だと考えられる。教育課程の変更を過度に心配する必要はない状況だ。志望校に合わせた学習計画を立てるよう指導したい。

河合塾では、今回紹介できなかった科目の試作問題分析や、新課程入試情報について、下記のサイトで公開している。また、大学入試情報サイトKei-Netでは、判明した国公立大一般選抜の科目情報のほか、主な私立大の判明情報についても掲載している。ぜひ参考にしてほしい。

●<新課程> 共通テスト 教科別研究

<https://www.kawai-juku.ac.jp/exam-info/research/>

●河合塾進学情報誌『Guideline』

<https://www.keinet.ne.jp/teacher/media/guideline/>

●2025年度入試情報（Kei-Net）

<https://www.keinet.ne.jp/exam/2025/>